

本田

匠

さん

「たくさんさんの支えに感謝しています」



9日に行われた祝勝会では、お祝いの花束が贈られました。

1月2日、3日に東京箱根間を往復するコースで行われた大学駅伝競走大会、通称「箱根駅伝」。89回目となった今大会もドラマティックなレースが展開され、テレビに釘付けになってご覧になった方も多いのではないでしょうか。各校の誇りを掛けたたすきをつなぎ、最初にゴールテープを切ったのは、予選会から勝ち上がった日本体育大学でした。30年ぶりの総合優勝です。

その箱根駅伝の往路、各校のエースが集う「花の2

区」(23.2キロメートル)に、日本体育大学のエースとして出場したのは、鶴ヶ田出身の本田匠さん。清和中学校、九州学院を経て日本体育大学へ進学。今回で3度目の箱根駅伝です。

7位でたすきを受けた本田さん。気温が低く、強風が吹きつける最悪のコンディションでしたが、序盤は集団で風をよけながら体力を温存、後半競った山梨学院大学のオムワンバ選手をラストスパイトで引き離し、3位でたすきを渡しました。区間4位の力走でした。その勢いそのままに日体大の選手は好走を続け、山登りの5区では、主将の服部選手が区間賞の走りを

みせ、往路での優勝を果たしました。服部選手の区間賞の走りも素晴らしかったですが、エースが激突する重要な区間で、外国人留学生選手に食らいついてチームに勢いをつけた本田さんの貢献度は大きいものがありました。

「当初の目標は3位入賞だったので、(優勝は)夢のような感じです。強風だったので、タイムより順位を一つでもあげることが考えて走りました。ラストスパイトは自信があったので、絶対に負けないという強い思いで走りました。」1月8日に帰郷した本田さんに、大会の感想を聞くと、丁寧に答えてくれました。

1月2日、「箱根駅伝」で、日本体育大学の2区を走った本田匠さん(鶴ヶ田出身)。1月8・9日に帰郷した本田さんに話を聞きました。

1月9日には、町陸上競技協会の主催で本田くんの活躍を祝う「祝勝会」が開かれ、中学校時代の仲間や、関係者が集まりました。清和中時代、一緒に全国大会に出場した松本友樹さんや、コーチとして3年間彼らを見守った八田光晴さんなど、たくさんの方々から活躍へのねぎらいと、今後の活躍を期待する言葉をもらった本田さん。

「たくさんさんの支えがあって走ることができることに感謝しています。今回の箱根

駅伝ほどそれを感じたことはありません。来年も挑戦者という意識をもって、さらに上を目指していきたい。」と感謝の言葉を語りました。

目標を聞くと「近い目標は関東インカレなどのトラック競技で良い成績を残すこと。将来は、オリンピッククマロン選手に選ばれるような選手になりたい。」と語った本田さん。

素直で謙虚な彼の姿勢を見ると、今後の更なる活躍が容易に想像できます。

箱根駅伝

東京箱根間往復大学駅伝競走、通称「箱根駅伝」。主催は関東学生陸上競技連盟。毎年1月2日・3日に行われる。東京大手門～箱根芦ノ湖間を往路5区間(108.0Km)、復路5区間(109.9Km)の合計10区間(217.9Km)で競う、学生長距離界最大の駅伝競走である。関東学連加盟大学のうち、前年大会でシード権を獲得した10校と、予選会を通過した9校、関東学連選抜を加えた合計20チームが出場する。



本田 匠 Takumi Honda

鶴ヶ田出身。21歳。

清和中学校、九州学院高校で全国大会を経験。高校3年生時には、ポーランドで行われた世界ジュニアクロスカントリー大会に日本代表として出場した経験もある。そして日本体育大学に進学。身長は162センチと小柄だが、その走りは力強く、日体大の中心選手に成長。1万メートルのベストタイムは28分46秒。大会や練習の合間を縫って半年に一度は帰省しているそうで、たまに山都路を走るとか。好きな言葉は「わが道を行く」。